

平成 28 年度 委 託 事 業 成 果 報 告 書

I. 基本情報

- 事業名 : (日本語) 認知症研究開発事業
(英語) Research and Development Grants for Dementia
- 委託事業課題名 : (日本語) 認知症の人の機能改善のためのエビデンスに基づくケア、看護、リハビリ
の手法や体制に関する研究
(英語) Study of evidence-based intervention of care, nursing and rehabilitation
to improve functions of dementia patients
- 委託事業担当者 (日本語) 公立大学法人兵庫県立大学 教授 筒井孝子
所属 役職 氏名 : (英語) University of Hyogo, Professor, Takako Tsutsui
- 実施期間 : 平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
- 分担研究 (日本語) 認知症の人の QOL 測定指標の妥当性およびその臨床応用の検討
分担課題名 : (英語) Relevance of QOL measurement index of people with dementia and its
clinical application
- 委託事業分担者 (日本語) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 部長 栗田主一
所属 役職 氏名 : (英語) Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Director, Awata Shuichi
- 分担研究 (日本語) 認知症の人に対して提供すべき看護・介護・リハにおける患者アセスメン
トの検討
分担課題名 : (英語) Consideration of patient assessment in nursing, long-term care and
rehabilitation that should be provided to people with dementia
- 委託事業分担者 (日本語) 学校法人堀井学園横浜創英大学 教授 田中彰子
所属 役職 氏名 : (英語) Yokohama Soei University, Professor, Tanaka Akiko

分担研究 (日本語) 地域で生活する認知症の人々における医療・介護サービス提供状況と DASC との関連性の検討

分担課題名: (英語) Consideration of the relationship between healthcare and nursing care service provision status and DASC in dementia people living in the community

委託事業分担者 (日本語) 公立大学法人静岡県立大学 准教授 東野定律

所属 役職 氏名: (英語) University of Shizuoka, Associate Professor, Sadanori Higashino

分担研究 (日本語) 認知症の人に対するケア時間別ケア内容の数量的な分析と提供体制の検討

分担課題名: (英語) Quantitative analysis of care contents by care hours for people with dementia and examination of the provision system

委託事業分担者 (日本語) 国立保健医療科学院 研究員 大冢賀政昭

所属 役職 氏名: (英語) National institute of Public Health, Researcher, Masaaki Otaga

II. 成果の概要 (総括研究報告)

和文

平成 28 年度は、研究協力自治体よりデータを収集し、認知症初期集中支援推進事業および認知症早期診断・早期介入に係わる事業の費用対効果について分析し、自治体ごとの取り組みパターンについて類型化を行った。その結果、現行の初期集中支援推進事業は、費用対効果が低く、地域住民を対象とした認知症早期診断のためのスクリーニングおよびその後の一定期間のセルフケア支援などの介入が重要であることを示した。

認知症の方に対するアセスメント項目については、田中教授(横浜創英大学)と共同研究を実施し、診療報酬における入院基本料の要件として活用されている「重症度、医療・看護必要度」の評価項目を認知症の観点から再検討した。この結果をもとに、入院患者の認知症状の新規アセスメント項目の開発に着手し、「入院患者を対象とした認知症リスクアセスメント(案)」を開発した。

認知症高齢者に提供されるケアについては、大冢賀研究員(国立保健医療科学院)と共同研究を実施し、タイムスタディデータを解析することで、具体的なケア内容の抽出を行った。

認知症高齢者に提供される医療や介護サービスと生活機能障害の関連性については、東野准教授(静岡県立大学)と共同研究を実施し、DASC(Dementia Assessment Sheet in Community-based Integrated Care System: 地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメント)によるアセスメントの経年的データから、介護サービスの効果の特徴を明らかにした。その結果、要支援レベルの要介護高齢者に対して、早期に介護サービスを集中的に提供することで、生活機能障害の改善に効果があることを明らかにした。

栗田部長(東京都健康長寿医療センター)のグループでは、28項目で構成される認知症の人のための健康関連の生活の質を測定する尺度である DemQOL (Smith SC 2005)の日本語版(本人用、家族用)を作成した。また、医療機関を受診する認知症高齢者と主たる介護

者を対象に DemQOL 調査を実施し、認知機能評価尺度、ADL 評価尺度、精神的健康度評価尺度、身体的健康評価尺度、ソーシャルサポート・ネットワーク尺度、家族介護者負担尺度を外的基準にして、尺度の信頼性と妥当性の検証を行った。

英文

In FY2016, we gathered data from some municipalities, analyzed the cost effectiveness of the Initial-Phase Intensive Support Team (IPIST) project, and categorized the approach pattern by municipalities. We analyzed the cost effectiveness of projects involving early dementia support project and dementia early diagnosis / early intervention, and categorized the approach pattern for each local government. As a result, the current Initial-Phase Intensive Support Team (IPIST) project has low cost effectiveness, it shows that intervention such as screening for the early diagnosis of dementia in the community and self-care support is important.

With regard to the assessment items for people with dementia, in collaboration with Tanaka's research group (Yokohama Soei University), the evaluation item of "index of severity, medical and nursing intensity" that is utilized as a requirement for hospitalization basic charge in medical fee compensation is reexamined from the viewpoint of dysfunction caused by dementia. Based on this result, we began to develop new assessment items for cognitive functions in hospitalized patients.

For care provided to the elderly with dementia, we analyzed the time motion study data to clarify specific care contents in collaborated with Otaga's research group (National institute of Public Health).

Regarding the relevance of medical care and nursing care services provided to elderly people with dementia and daily life function impairment, in collaboration with Higashino's research group (University of Shizuoka), evaluate the degree of autonomy of daily life such as assessment data by Dementia Assessment Sheet in Community-based Integrated Care System, ADL by daily life function evaluation table data collected, nursing care and medical receipt data were collected and analyzed to characterize the impact of service provision by using longitudinal data. As a result, we clarified that living functional dysfunction can be improved by intensively providing nursing care services to elderly who need long - term care requiring support level at an early stage.

In Awata's research group (Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology), the Japanese version of DemQOL (Smith SC 2005) which is a measure for measuring the quality of health related living for people with dementia composed of 28 items For the elderly with dementia and the main caregiver who consulted medical institutions, we made a survey on the subjects. Using this data, we verified the reliability and validity of DemQOL using external criteria (Cognitive function evaluation scale, ADL evaluation scale, mental and physical health evaluation scale, social support network scale, family caregiver burden scale).

III. 成果の外部への発表

(1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国内誌 7件、国際誌 0件）

1. 筒井孝子. ケアの質評価：国際的な到達点と日本の今後（特集 ケアの社会政策）社会保障研究 1(1), 129-147, 2016
2. 筒井孝子. 地域包括ケアシステムを構築するために必要な視点：社会福祉法人における地域貢献のあり方. 月刊福祉 99(8), 18-25, 2016
3. 筒井孝子. これからの地域医療における地域医療構想(ビジョン)と地域包括ケアシステムのあり方. 厚生の指標 63(8), 1-8, 2016
4. 筒井孝子, 東野定律, 大冢賀政昭. 居宅介護サービス利用者における生活機能障害の経時的変化. 経営と情報 29(1), 1-10, 2016
5. 筒井孝子. 地域包括ケアシステムにおける認知症早期診断および介入を実現するための要件. 都市問題 108(1), 71-81, 2017
6. 栗田主一. 認知症初期集中支援チーム. 臨床精神医学 45(5), 657-661, 2016
7. 栗田主一. わが国の認知症施策の未来(7)質の高い診断と診断後支援. 老年精神医学雑誌 27(9), 993-1000, 2016

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表

1. 筒井孝子. 「看護必要度」の開発とその臨床応用に向けた視点. 第17回日本医療情報学会看護学術大会, 2016.7.9; 神戸
2. 筒井孝子. 地域包括ケアシステムにおける医療サービス提供機関への期待. 第14回 兵庫県立病院学会, p22-27, 2016.9.10; 神戸
3. 筒井孝子, 東野定律, 大冢賀政昭. 一般急性期病棟入院患者の入院日数、年齢及び看護必要度との関連性の検討. 第75回日本公衆衛生学会; 2016.10.25-28; 大阪
4. 大冢賀政昭, 筒井孝子, 東野定律. 特別養護老人ホームにおいて提供されるケア内容の実態—ユニット型と多床室の比較. 第75回日本公衆衛生学会; 2016.10.25-28; 大阪
5. 東野定律, 大冢賀政昭, 筒井孝子. 高齢者の日常生活機能評価の経時的変化からみたサービス評価に関する研究. 第75回日本公衆衛生学会; 2016.10.25-28; 大阪
6. 木下隆志, 東野定律, 筒井孝子, 大冢賀政昭. 認知症に係わる生活機能障害への配慮を評価する介護技術項目の検討. 第75回日本公衆衛生学会; 2016.10.25-28; 大阪
7. 筒井孝子. 地域包括ケアシステムの概念. 第36回食事療法学会; 2017.3.5; 高知

(3) 「国民との科学・技術対話社会」に対する取り組み

1. 筒井孝子. 介護・医療、福祉分野におけるイノベーションの創出. 兵庫県立大学経営研究科 医療・介護マネジメントセミナー 2016.12.10 ; 神戸
2. 筒井孝子. エビデンスに基づく病院管理の展望と課題. 兵庫県立大学経営研究科 医療・介護マネジメントセミナー 2017.3.25 ; 神戸

(4) 特許出願

該当なし

平成 28 年度 補 助 事 業 成 果 報 告 書

I. 基本情報

事業名： (日本語) 認知症研究開発事業
(英語) Research and Development Grants for Dementia

補助事業課題名： (日本語) 認知症の人の機能改善のためのエビデンスに基づくケア、看護、リハビリ
の手法や体制に関する研究
(英語) Study of evidence-based intervention of care, nursing and rehabilitation
to improve functions of dementia patients

補助事業担当者 (日本語) 国立保健医療科学院 研究員 大塚賀政昭
所属 役職 氏名： (英語) National institute of Public Health, Researcher, Masaaki Otaga

実施期間： 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日

分担研究 (日本語) 認知症の人に対するケア時間別ケア内容の数量的な分析と提供体制の検討
分担課題名： (英語) Quantitative analysis of care contents by care hours for people with
dementia and examination of the provision system

II. 成果の概要（総括研究報告）

・ 補助事業代表者による報告の場合

・ 補助事業分担者による報告の場合

補助事業代表者：公立大学法人兵庫県立大学・経営研究科・筒井孝子 総括研究報告を参照。

III. 成果の外部への発表

(1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国内誌 1件、国際誌 1件）

1. 大冢賀政昭. 介護事業所における原価管理の活用可能性と課題—タイムスタディデータを用いた原価管理の試みを通して—. 商大ビジネスレビュー 6(3), 1-25, 2016

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表

1. 大冢賀政昭, 筒井孝子, 東野定律. 特別養護老人ホームにおいて提供されるケア内容の実態—ユニット型と多床室の比較. 第75回日本公衆衛生学会; 2016.10.25-28; 大阪
2. 木下隆志, 東野定律, 筒井孝子, 大冢賀政昭. 認知症に係わる生活機能障害への配慮を評価する介護技術項目の検討. 第75回日本公衆衛生学会; 2016.10.25-28; 大阪

(3) 「国民との科学・技術対話社会」に対する取り組み

該当なし

(4) 特許出願

該当なし